研究調査報告

中国・韓国の神社跡地報告

稲宮　康人
（非文字資料研究センター　研究協力者）

はじめに

大日本帝国の地理的な広がりと、それぞれの跡地が戦後たどってきた時間を写しだし、各国の戦後の歩みを比較検討することを目指し、神社跡地の撮影・調査を続けている。その一環として、2015 年上半期に中国・韓国の神社跡地を訪れた。ここでは、各跡地についての簡単な報告を行う。また、中国にあった神社の位置がわかる資料は非常に少ないので、調査に使用した資料も併せて報告する。

中国（吉林省・黒龍江省）の神社跡地

2015 年 1 月 28 日から 2 月 7 日まで中国の吉林省・黒龍江省で神社跡地調査を行い、吉林省の吉林・延吉・四平、黒龍江省の牡丹江・哈爾濱・哈爾濱市平房（東郷神社）を訪れた。以下報告を行う。

吉林神社跡

吉林神社跡地は児童公園となっている。神社遺構が多く残っており、旧拝殿などの建物がある。改装され 4D 影院児童大世界となっている建物と、ほぼ放置されている建物がある（写真 1）。石灯籠(写真 2, A）は歴史遺跡として保存されている。本殿？は取り壊され、跡地は吉林市児童公園管理所が入る建物となっている。

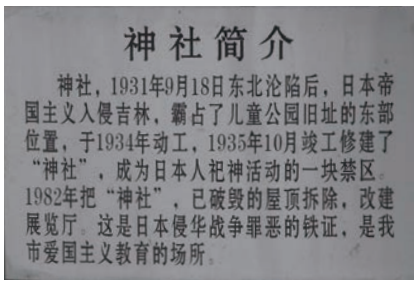


写真 A　吉林神社跡。

牡丹江神社跡

牡丹江は濱綏線（哈爾濱―綏芬河）と圖佳線（圖們―佳木斯）が交差する、満洲北東部の中心都市だった。現在も黒龍江省の有力都市である。神社跡地は北山公園となっている [(1)]。公園中央には抗日戦争暨愛国自衛戦争烈士紀念碑が建っている（写真 3）。池宮城晃『写真集旧満洲』には「塔がある場所は忠霊塔跡地で、この背後の山に牡丹江神社があった」とある。神社遺構は何も残っていない。

延吉神社跡

延吉は朝鮮との国境地帯に位置する延辺朝鮮族自治州の中心の街である。神社跡地は人民公園となっている。何かの礎石（写真 4）だったと思われる五角形の石と、高台に上る階段（写真 5）は、神社のものと推測される。延吉神社についての史料は発見できず、遠藤誉『卡子』所収「延吉市街図」や複数のネット記事を参照した [(2)]。

四平街神社跡

四平にあった四平街神社跡は軍の基地となっている（写真 6）。基地は立入禁止で、入口には撮影禁止の看板が掲げられている。2006 年に調査が行われており、『旧満州国の「満鉄付属地」跡地調査からみた神社の様相』に調査結果が掲載されている。

写真 1. 吉林神社跡。神社建物がそのまま使われている。正面の拝殿跡と思われる建物の中はゴミ置き場？となっていた。

写真 2. 吉林神社跡。保存されている石灯籠。柵に取り付けられている解説は写真 A 参照。

写真 3. 牡丹江神社跡。烈士紀念碑。塔の上には胸を刺された兵士の像。

写真 7. 哈爾濱神社跡。

写真 8. 東郷神社跡付近。

写真 9. 鉄嶺神社跡。人民公園。

哈爾濱神社跡

哈爾濱は 19 世紀末、カルイムスカヤから満洲を通ってウラジオストクに向かう、シベリア鉄道の短絡線、東清鉄道の敷設拠点として松花江河岸に誕生した街である。現在は黒龍江省の省都になっている。哈爾濱神社は昭和 10（1935）年の陸軍記念日三十周年を記念して、日本人居留民会が哈爾濱駐屯軍の後援を得て創建した神社だった。哈爾濱駅を背に紅軍街を 5 分程進んだ場所にある紅傳広場に面して、ツインタワーが建っている場所が哈爾濱神社跡である（写真 7）。通りの反対側にはロシア時代から続く黒龍江省博物館がある。神社遺構は何も残っていない。

東郷神社跡

東郷神社は、哈爾濱郊外の平房地区にあった関東軍防疫給水部（通称七三一部隊）の基地内に作られていた構内神社。史料が無く、詳細は不明。神社名は七三一部隊が正式に認可される前に東郷部隊という名（部隊長石井四郎の偽名東郷一が由来か？）で活動していた[3] ことから名づけられたと思われる。森村誠一『悪魔の飽食』所収の「部隊要図」を頼りに現地に行ったが、詳細な地図が七三一部隊の博物館である侵華日軍第七三一部隊旧跡の入口に掲示してあり（写真 B）、それを元に大体の位置を推定した（写真 8）。一帯には、今も使用されている七三一部隊の建物も多数あったが、神社遺構は何も残っていない。

写真 B　七三一部隊基地復元図

中国（遼寧省・吉林省）の神社跡地

2015 年 4 月 24 日から 5 月 4 日まで中国で神社跡地調査を行い、遼寧省の鉄嶺・営口・遼陽・大石橋・瀋陽（文官屯）・錦州、吉林省の通化を訪れた。

鉄嶺神社跡

鉄嶺神社があった鉄嶺公園は現在も公園である（写真 9）。神社の痕跡は無い。2006 年度に詳しい調査がなされており、結果は『旧満州国の「満鉄付属地」跡地調査からみた神社の様相』に掲載されている。

営口神社跡

遼河河口の街営口は、天津条約によって上流の牛荘が開港場となったことで南満洲最大の貿易港となったが、東清鉄道南満洲支線（後の満鉄）敷設と大連の建設によって、その地位を低下させた。満鉄本線の大石橋駅から営口駅までは支線が延びており、営口神社は営口駅前の公園内にあった。現在その場所は人民公園となっている。神社跡地には革命烈士紀念碑が建つ（写真 10）。公園の案内板には神社があったという記載（写

写真 4. 延吉神社跡。何かの礎石か？

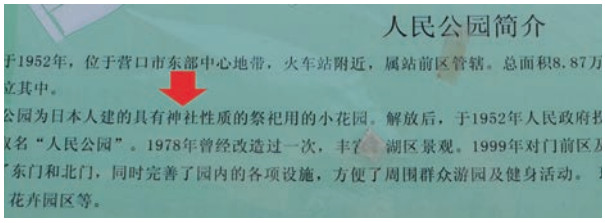
写真 5. 延吉神社跡。神社の階段。

写真 6. 四平街神社跡。木が茂っている場所が神社跡地。

写真 10. 営口神社跡。烈士紀念碑。

写真 11. 遼陽神社跡。白塔公園。写真右が白塔。左奥に圓通禅院（神社跡地）。

写真 12. 遼陽神社跡。本殿跡地に建つ圓通禅院。この建物裏に石柱（写真 D）がある。



人民公园简介

于1952年，位于营口市东部中心地带，火车站附近，属站前区管辖。总面积8.87万
立其中。
公园为日本人建的具有神社性质的祭祀用的小花园。解放后，于1952年人民政府
以名“人民公园”。1978年曾经改造过一次，丰了湖区景观。1999年对门前区
东门和北门，同时完善了园内的各项设施，方便了周围群众游园及健身活动。
花卉园区等。

写真 C　営口人民公園案内版

真 C）がある。

遼陽神社跡

遼陽神社は、明治 42（1909）年、12 世紀に建てられた仏塔の傍らに創建された。現在は白塔公園（写真 11）となっており、神社跡地には 2002 年に建てられた圓通禅院がある（写真 12）。禅院の裏手には「昭和六年十一月三日」と刻まれた石柱が一つだけ遺されている（写真 D）。公園事務所は、社務所を改装したものと思われる（写真 13）。

写真 D　遼陽神社跡。石柱。

大石橋神社跡

大石橋神社は大石橋駅からすぐの場所にあり、この街の象徴ともいえる幡龍山の麓に建てられていた。現在、山全体が幡龍山公園となっており、遊園地などがある。龍潭祠がある場所が本殿跡と推測される（写真 14）。また、祠へと上る階段の一部は昭和三年御大典事業によって造られたものだと思われる（写真 15）。祠の傍らにある岩には奉献と刻まれていたが（写真 E）、これは満洲時代のものかもしれない。第 12 回ばんりゅうの集い横浜大会事務所『旧満洲大石橋尋常高等小学校　ばんりゅうの集い』には、1981 年に神社跡地を訪問した記事がのっており、それによれば、この時点では神社遺構はかなり残っていたようである。

写真 E　大石橋神社跡。「奉献」と刻まれた岩肌。左下にも碑文が刻まれている。

通化神社跡

通化はソ連軍侵攻後、関東軍総司令部が新京（現・長春）から移転した街である。また、1946 年 2 月 3 日に通化事件（旧日本軍の軍人を中心としたグループが共産軍を攻撃し、多数の日本人避難民が逮捕・殺害された事件）が起きた街でもある。通化神社跡地は、関東軍と

写真 16. 通化神社跡。楊靖宇陵園。建物前には楊の銅像。

写真 17. 通化神社跡。階段の上が陵園。下には東北抗日聯軍記念館。

写真 18. 文官屯神社跡？。大学構内の鳥居。

写真 13. 遼陽神社跡。神社社務所か？

写真 14. 大石橋神社跡。龍潭祠。本殿跡地か？左側岩肌に写真 E がある。

写真 15. 大石橋神社跡。奥にある階段が当時のものか？階段を上った先に龍潭祠がある。

戦い 1940 年に戦死した東北抗日聯軍の指導者楊靖宇が祀られた靖宇陵園となっている(写真 16)。一段高くなった陵園の下部には東北抗日聯軍記念館がある。陵園の裏手には石材が無造作に積んであったが、それらは神社に使われた石材なのかもしれない。神社の場所は日本通化会『遥かなる通化　旧満州通化省から引揚げた人々の思い』による。

文官屯神社跡？

瀋陽郊外、バスで 30 分程行った場所に 2 基の鳥居が残されている。遼寧兵器工業大学・瀋陽工業経済大学の構内に 1 基（写真 18)。大学裏門の外にもう 1 基がある（写真 19)。中国のネット記事 [4] を基に、馬興國先生が調査を行い、場所を特定した。最寄りのバス停の名前が文官屯であったので、文官屯神社だと推定されるが、資料がなく確定できていない。文官屯地区には関東軍の兵器工場があったので、工場周辺に住んだ従業員の為の神社だったかもしれない [5]。

錦州神社跡

錦州は満洲境界と満洲中心地を結ぶ奉山線（北奉天―山海関）と、錦州から熱河省へと向かう錦古線（錦縣―古北口）が分岐する鉄道の要衝であった。満州事変後、関東軍によって爆撃された街でもある。錦州神社は駅の北東方向にあり、忠霊塔と並んで建っていた。神社跡地は遼瀋戦役紀念館となっている（写真 20)。遺構は何もない。本殿があった場所は烈士像が立つ位置か？[6]。神社の場所は錦州会『最後の満洲　錦州終戦前後』所収「錦州市街図」により確認した。

韓国の神社跡地

2015 年 3 月 25 日から 4 月 1 日まで韓国南部で神社跡地調査を行い、慶尚北道の浦項・九龍浦、慶尚南道の馬山・鎮海、全羅北道の群山、全羅南道の木浦（松島神社）・光州（松汀神社）を訪れた。なお、今回の跡地調査にあたって瀧元望氏作成のリストを参照している。

浦項神社跡

迎日郡浦項邑（現・浦項市）にあった浦項神社。神社跡地はカトリック教会のトクス聖堂となっている（写真 21)。周辺は住宅地である。神社遺構は何も残っていない。

浦項の祠跡

1936 年作成の地図には、神后山の稜線上に鳥居マークが描いてあり、祠があったようである。丘の上に登ってみたが、何も見つけることはできなかった（写真 22)。

九龍浦神社跡

浦項から市内バスで 40 分程行った場所にある漁村・九龍浦には、保存された日本家屋が立ち並ぶ九龍浦近代文化歴史通りがある。その通り沿いの海を望む丘の上に九龍浦神社が建てられていた。境内の構造が完全に残っ

写真 19. 文官屯神社跡？。門の外にある鳥居。

写真 20. 錦州神社跡。中央の像が烈士紀念碑。両側の黒い石碑には戦死者の名が刻まれている。

写真 21. 浦項神社跡。トクス聖堂。

写真 22. 浦項の祠跡。丘の頂上にあった。

写真 23. 九龍浦神社跡。境内地へと続く階段。階段両側には狛犬。

写真 24. 九龍浦神社跡。本殿跡。現在は龍王堂。右の建物は忠魂閣。

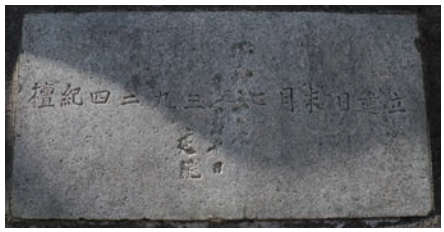


写真 F　忠魂塔基壇の石版

ており、当時の様子をうかがうことができる韓国では珍しい場所である。階段、玉垣、狛犬、石碑など多数の遺構がある。本殿跡には龍王堂が建ち（写真 24）、その隣には忠魂閣が建てられている。再整備の際に掘り出された手水鉢や、砲弾型の石が忠魂塔基壇の隣に並べてある（写真 25）。忠魂塔基壇に刻まれた昭和年号は消され、檀紀年号が上から彫られていた（写真 F）。鳥居も埋まっているらしいが、発見できなかった[7]。

写真 G　民俗館として使われている旧社務所？の写真

馬山神社跡

馬山神社は明治 42（1909）年に馬山港を一望する馬山公園の中に創立された。現在、馬山神社跡地には馬山第一女子中学校が建っている。神社は高台に作られ、学校入口から海へと一直線に下りていく道は、神社の参道で（写真 26）、途中には鳥居もあった。学校入口に残っている階段はそのまま使用され、灯籠の笠が一つだけ植え込みの囲いとして使われている（写真 27）。戦後社務所？を民俗館として使っていたが（写真 G）現在は取り壊されている。取り壊した旧社務所の屋根瓦は学校内の歴史館に保存されている（写真 H）。部外者が学校内に入ることは、どこの国でも難しくなってきているが、構内での撮影許可だけでなく、日本語ができる教師による構内案内までしていただいた。

写真 H　歴史館に保存されている瓦

松島神社跡

木浦の松島神社跡地（写真 28）は、詳細な調査が 2005 年になされている。『旧朝鮮の神社跡地調査とその検討』（2006）を参照されたい。2005 年時点から変わったところは、神社へと上る階段が「東明洞七七階段」と名づけられ、歴史が書かれた石碑が建てられたことである（写真 I）。

写真 I　「東明洞七七階段」石碑説明文

写真 28. 松島神社跡。石碑は階段上り口の右側に建つ。

写真 29. 松汀神社跡。灯籠。右下階段にも「奉」の字が刻まれている。

写真 30. 松汀神社跡。拝殿？がそのまま使われている金仙寺の大雄殿。

写真 25. 九龍浦神社跡。忠魂塔基壇。再整備の際に掘り出された手水鉢、砲弾型の石、礎石が並ぶ。左側にある建物は志魂閣。

写真 26. 馬山神社跡。参道跡。坂を上って、つきあたった所が神社跡。写真手前辺りに鳥居がたっていた。

写真 27. 馬山神社跡。階段は当時のもの。右側植込みの石垣には灯籠の笠がある。

松汀神社跡

光山郡松汀邑（現・光州市）にあった松汀神社。神社跡地は、湖南線（大田―木浦）から光州に向かう慶全西線が分岐する松汀里駅の近傍、地下鉄松汀駅からほど近い松汀公園にある。社務所、拝殿、石灯籠（写真 29）、南無阿弥陀仏と書き換えられた石碑などが残っている。神社の建物は金仙寺として使われている（写真 30）。拝殿へと続く旧参道上には顕忠塔（写真 31）が建てられている。この神社の存在と場所は諸葛氏のご教示に依った。

群山神社跡

群山は錦江河口に位置する植民地朝鮮の主要貿易港であった。群山神社は大正 5（1916）年に大正天皇即位を記念して、海を望む高台（現・月明公園）に創建された（写真 32）。山頂付近には愛国志士李仁植銅像、義勇不滅と刻まれた群山義勇消防隊の石碑などが建てられている。遺構は残っていない。

鎮海神社跡

鎮海は要港部のある海軍の街だった。それを引き継いだ韓国海軍の軍港が今もある。鎮海神社は、頂上に日本海戦記念塔（今は取り壊され、同じ場所に鎮海塔が建てられている）が建つ兜山（現・帝皇山）の中腹にあった日露記念館の跡地に大正 5（1916）年に創建された。神社跡は鎮海南山初等学校となっている（写真 33）。学校の敷地内には立ち入ることができず、遺構が残っているかどうか確認できなかった。現在の鎮海は 30 万本の桜が咲き乱れる春の軍港祭で有名である。

おわりに

今期の調査では、旧満洲の遼寧省・吉林省・黒龍江省の跡地調査が中心となった。初めての調査となった神社跡地も 10 社程はあったと思う。今後は、まだ手薄な黒龍江省や内蒙古の神社跡地に行く予定としている。

韓国南部の調査は調査済の場所ばかりだが、松島神社のように石碑の建造という歴史的な行為をとらえることができたのは収穫だったのではないだろうか。

そもそも、海外に造られた神社は、名前と当時の住所しか判明していない神社が大変に多い。この調査が、その空白を少しでも埋めることになれば幸いである。

【注】

(1) 回想・牡丹江神社　http://accafe.jp/manshu/index.php?%E7%89%A1%E4%B8%B9%E6%B1%9F%E9%96%A2%E9%80%A3%E7%94%BB%E5%83%8F
(2) 延吉旧影 008- 延吉神社 http://blog.sina.com.cn/s/blog_48b3cedd0102vey9.html
張鼓峰事件の戦跡を訪ねる ある老母との出会い http://www2u.biglobe.ne.jp/~akashids/ryokou/choukohou/dalian20.html
(3) 青木冨喜子『731』新潮社
(4) 沈阳惊现“日军神社门框”是日军为避邪而修 http://www.nen.com.cn/77972966595362816/20040819/1473703.shtml
(5) 家族の第２の原風景、満州・文官屯（ブンカントン）を訪ねて② http://blog.goo.ne.jp/isokawas/e/cb6c26b98e4d9f1e4c22cf9f8e0da2a5
(6) 錦州の旅・行ってきました編 http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/8467/zinzou.html
(7) 韓国にもあった日本人町（前編） http://www.asahi.com/and_M/interest/gallery/20130416clickdeep/11.html

写真 31. 松汀神社跡。顕忠塔の向こうに神社跡。右の石塔は日本時代のものか？

写真 32. 群山神社跡。小学校の奥に見える山の中腹に神社があった。

写真 33. 鎮海神社跡。鎮海南山初等学校。